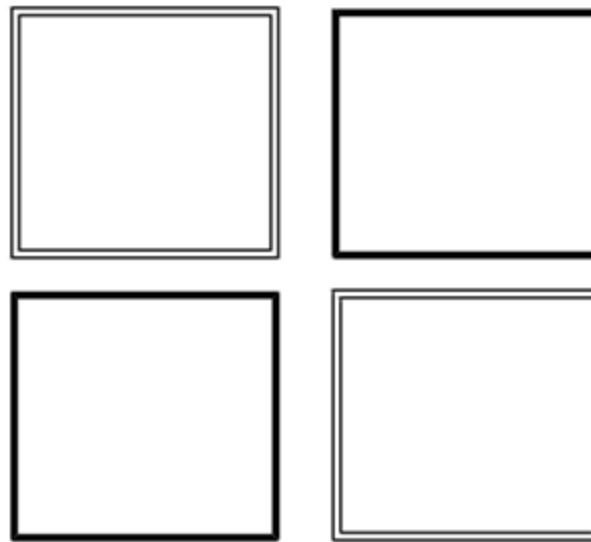


令和 7 年度年間指導計画 (2 年生用シラバス)



富山県立高岡工芸高等学校

■ 目 次 ■

国 語	_____	1
地歴公民	_____	3
数 学	_____	4
理 科	_____	5
保健体育	_____	7

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	国語	科目名	現代の国語	教科書	新現代の国語	学年組	第2学年 21H～25H	単位数	2
年間目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								

1学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
4	入門 言葉と声で表そう	・相手や場を意識して、効果などを考えながら言葉を使う。		
5	1 わかりあうために〈読む〉 「伝え合いに大事なことを考える」 「届く言葉、届かない言葉」 「わかりあえないことから」	・資料を読み取り、相手との伝え合いの中で自分が重視していることは何かを考え、周りの人と話し合う。 ・文章を読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨をまとめ、要約する。 ・コミュニケーションについて、自分の考えを広げたり深めたりする。	定期考査の成績及び課題や補助プリントへの取組状況、授業態度等で総合的に評価する。	中間
6 7	2 確かな情報を伝えるために 〈話す・聞く〉 「情報はつくられる」 「ひとまず、信じない」 「情報を編集し、的確に発表するーパブリックスピーチ」	・身のまわりにある情報を収集・整理・検討する。 ・集めた情報をまとめて自分の意見を述べる。また、それを聞いて同意したり、質問したり、反論したりする。 ・「情報を適切に扱うにはどうすればよいか」について、相手や場を意識して、論理や展開を意識したスピーチを行う。	定期考査の成績及び課題や補助プリントへの取組状況、授業態度等で総合的に評価する。	期末
1学期授業週数		12		

2学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
9	3 情報を生かすために〈書く〉 「人が死なない防災」 「減災学をつくる」	・「正常化の偏見」や「認知不協和」を理解し、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・ハザードマップに問題点について筆者の考えを整理し、「減災のためのツールをつくる時にもっとも大切なことは何か」、筆者の考えを説明する。		
10	5 場に応じて伝えるために 〈話す・聞く〉 「構成や展開を意識して発表するープレゼンテーション」	・「修学旅行の意義」について、効果的にスライドを用いてプレゼンテーションを行う。	定期考査の成績及び課題や補助プリントへの取組状況、授業態度等で総合的に評価する。	中間

11 12	4 よりよい読み手になるために 〈読む〉 「読むことのレッスン」 「水の東西」 「コインは円形か」	・事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。 ・二つの水の姿を捉え、東西の文化の違いについて考えを深める。 ・対比的表現に着目して、筆者の考えを読み取る。 ・接続詞や指示語に注意し、文脈を丁寧に読み取る。 ・具体例と主張の関係に着目し筆者の考えを読み取る。	定期考査の成績及び課題や補助プリントへの取組状況、授業態度等で総合的に評価する。	期末
2学期授業週数		15		

3学期				
月	学習項目 (単元名)	学習のねらい（内容）	評価方法	考查範囲
1	6 説得力を高めるために 〈書く〉 「宝探してみたいに本の世界へ入っていきます」 「情報を整理して推薦するーブックトーク原稿」	・自分の心情を相手に伝えるための表現上の工夫を理解する。 ・聞き手を意識して原稿を作成し、構成や展開を工夫して発表する。		
2 3	7 考えを共有していくために 〈話す・聞く〉 「檻の中の“街”」 「小さな哲学者」	・写真と文章を比較し、筆者の伝えたいことを考えることを通して、何を伝えようとしているか推論し、伝え方について考えを深める。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や婉曲的な述べ方について理解を深める。 ・子供たちの問いとそれに対する筆者の気づきを整理し、筆者の伝えなかったことは何かをまとめる。	定期考査の成績及び課題や補助プリントへの取組状況、授業態度等で総合的に評価する。	学年末
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項について、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科 科 名	国 語	科 目 名	現代の国語	教科 書	新現代の国語	学 年 組	第2学年 26H・27H	単 位 数	3
年間 目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								

1 学期					
月	学 習 項 目 (単 元 名)		学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査
4	入門 言葉と声で表そう		・ 相手や場を意識して、効果などを考えながら言葉を使う。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態度 等で総合的に評 価する。	中 間
5	1 わかりあうために〈読む〉 「伝え合いに大事なことを 考える」 「届く言葉、届かない言葉」 「わかりあえないことから」 「聞く力」		・ 資料を読み取り、相手との伝え合いの中で自分が重視していることは 何かを考え、周りの人と話し合う。 ・ 文章を読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に 捉え、要旨をまとめ、要約する。 ・ 二つの文章を読み比べ、コミュニケーションに対する筆者の考えや視 点、その述べ方の違いなどについて考える。		
6 7	2 確かな情報を伝えるために 〈話す・聞く〉 「情報はつくられる」 「ひとまず、信じない」 「情報を編集し、的確に発表す るーパブリックスピーチ」 「情報と身体」		・ 身のまわりにある情報を収集・整理・検討する。 ・ 集めた情報をまとめて自分の意見を述べる。また、それを聞いて同意 したり、質問したり、反論したりする。 ・ 「情報を適切に扱うにはどうすればよいか」について、相手や場を意識 して、論理や展開を意識したスピーチを行う。 ・ 「本当の情報リテラシー」とは何かを考える。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態度 等で総合的に評 価する。	期 末
1 学期授業週数		1 2			

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	3 情報を生かすために《書く》 「人が死なない防災」 「減災学をつくる」 「評価した情報をまとめる 一報告書」	・「正常化の偏見」や「認知不協和」を理解し、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 ・ハザードマップに問題点について筆者の考えを整理する。 ・伝える相手や目的を明確にし、防災の掲示物を作成する。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的に 評価する。	中 間
10	5 場に応じて伝えるために 《話す・聞く》 「中身当てクイズ」 「読み比べる—海ガメの無念」 「構成や展開を意識して発表する—プレゼンテーション」	・根拠を明確にして考えを伝える。 ・意見広告と新聞記事の二つの文章を読み比べて、媒体による書き方の違いを分析し、相手や目的、場などにふさわしい文章の書き方について理解を深める。 ・「修学旅行の意義」について、効果的にスライドを用いてプレゼンテーションを行う。		

11	4 よりよい読み手になるために 〈読む〉 「読むことのレッスン」 「水の東西」 「コインは円形か」 6 説得力を高めるために 〈書く〉 「折々のことば」 「宝探してみたいに本の世界へ 入っていきます」	・事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。 ・二つの水の姿を捉え、東西の文化の違いについて考えを深める。 ・対比的表現に着目して、筆者の考えを読み取る。 ・接続詞や指示語に注意し、文脈を丁寧に読み取る。 ・具体例と主張の関係に着目し筆者の考えを読み取る。 ・引用の目的やはたらきについて理解する。 ・自分の心情を相手に伝えるための表現上の工夫を理解する。	定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的に 評価する。	期
----	---	--	--	---

3学期						
月	学 習 項 目 (単 元 名)		学習のねらい（内容）		評 価 方 法	考査 範囲
1	「情報を整理して推薦する ーブックトーク原稿」		・聞き手を意識して原稿を作成し、構成や展開を工夫して発表する。 ・キャッチコピーを工夫し、視覚に訴えるポップを作成する。		定期考査の成績 及び課題や補助 プリントへの取 組状況、授業態 度等で総合的に 評価する。	学 年 末
2	7 考えを共有していくために （話す・聞く） 「檻の中の“街”」 「小さな哲学者」		・写真と文章を比較し、筆者の伝えたいことを考えることを通して、 何を伝えようとしているか推論し、伝え方について考えを深める。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や婉曲的な述べ方について理解を 深める。 ・多面的多角的なものの見方や考え方、「聞く」ことの意義について認 識を深める			
3	8 よりよい書き手になるために （書く） 「情報を活用して説得的に書く ー小論文」 「書いた文章を批評し合う ー推敲」		・「国際理解」について書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事 例を用いて書く。 ・批評し合うことを通して、よりよい文章になるように推敲する。			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35		

◎評価の観点及び内容

知識・技能	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項について、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

[illegible]

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	査 査 範 圍
4	1部 1章 地図や地理情報システム と現代世界	①地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。	授業への取り組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	中 間
5		地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身に付ける。		
6		②各種の地図の特徴や、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。		
7	2章 結びつきを深める現代世界	①世界を構成する国家の領域の定め方や、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解する。 国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身に付ける。 ②国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現する。	授業への取り組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	期 末
1学期授業週数		12		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	2部 1章 生活文化の多様性と国際理解 (東アジア・東南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカ・南アフリカ・ヨーロッパ)	①世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。 世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付ける。	授業への取り組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中 間
10		②地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。		

11	2部 1章 生活文化の多様性と国際理解 (ロシア・アメリカ合衆国・ラテンアメリカ・オセアニア)	①世界が多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。 世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付ける。	授業への取り組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。
12	2章 地球的課題と国際協力	②地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ①地球的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係し合っていることを理解する。また地球的課題が生じている場所や要因の関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身に付ける。 ②地球的課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	
2学期授業週数		15	

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲	
1	3部 1章 自然環境と防災	①自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかでみられる防災・減災への取り組みを理解する。またそのための取り組みを見いだすための、地理的見方・考え方を身に付ける。	授業への取り組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	学 年 末	
2		②どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。			
3	2章 生活圏の調査と地域の展望	①生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解する。また生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身に付ける。 ②事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35	

◎評価の観点及び内容

知識・技能	・知識として学んだ、地理の基礎や基本的事項が身に付いている。 ・自然地理を理解し、その知識を元に各地域の生活について考えることができる。 ・国際社会に生きる日本人として、世界の地理を正しく理解できる。 ・図表から必要事項を読み取ることができる。 ・資料を活用し、導き出した過程や結果を適切に表現している。
思考・判断・表現	・多くの学習内容を、自分なりに整理して考えようとしている。 ・自分独自の視点で、様々な地理的作業を行っている。 ・自然環境の違いにより人々の生活に違いがあることを理解し、判断している。
主体的に学習に取り組む態度	・地理の授業に際し、興味・関心を持ち、主体的・自主的に授業に参加している。 ・発問に対し、真摯な態度で考え積極的な姿勢を見せている。 ・プリントの穴埋めや、ノートの整理・工夫に意欲的である。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	数学	科目名	数学 I	教科書	数研出版 最新 数学 I	学年組	2年 6～7組	単位数	2
年間目標	図形と計量、データの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	第4章 図形と計量 第1節 三角比	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	定期考査の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで総合的に評価する。	中 間
5				
6	第1節 4. 三角比の拡張		定期考査の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで総合的に評価する。	期 末
7	第2節 正弦定理・余弦定理	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。		
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
9	第2節 8. 三角形の面積		定期考查の成績、小テスト、プリントなどの提出物の内容などで総合的に評価する。	中 間
10	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。		

11	第5章 3. データの散らばり	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	定期考查の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで総合的に評価する。	期 末
	12			
2 学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考查 範囲
1	数学 A 集合と要素の個数 数え上げの原則	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	定期考查の成績、小テスト、プリント、授業ノート、宿題ノートなどの提出物の内容、学習に対する意欲や授業態度などで総合的に評価する。	学 年 末
2	数学 I の復習	数学 I の復習を行い、問題を解決する力を培う。		
3				
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技能	形と計量、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断することができる。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善することができる。

令和 7 年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	理科	科目名	化学基礎	教科書	高校化学基礎 (実教出版)	学年組	21～27H	単位数	2
年間目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考查 範囲
4	序章 化学と人間生活 1 章 物質の構成 1 節 物質の探究 1 純物質と混合物 2 混合物の分離 3 単体と元素 4 元素の確認	身のまわりの物質に着目し、我々の生活が物質に支えられていることを理解する。混合物と純物質の違いを理解し、自然界の物質の多くが混合物であることを理解する。また、混合物から目的の物質を分離するには、物質の性質にあわせた方法があることを知る。 元素の意味を知り、純物質のなりたちを理解する。 粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解する。 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。	授業への取り組み方、提出物及び考查の結果を総合的に判断する。	中
5	2 節 物質の構成粒子 1 原子 2 電子配置とイオン 3 周期表	同位体の定義とその性質を理解する。 陽イオン、陰イオンの生成のしくみを理解する。 元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。		間
6	2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合 1 イオン結合 2 イオン結晶 2 節 共有結合 1 分子と共有結合 2 分子の電子式と構造式 3 分子の極性 4 分子間力と分子結晶	陽イオンと陰イオン間の静電氣的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。 イオン結晶の組成式のつくりかたやイオン結晶の性質を理解する。 分子中の原子の結合及び分子の構造を表す方法を理解する。 金属元素の結合と性質を理解する。また、種々の金属について理解する。 それぞれの化学結合によってできた結晶について、その性質や構成粒子などを比較し、理解する。 それぞれの化学結合でできた代表的な物質について理解する。	授業への取り組み方、提出物及び考查の結果を総合的に判断する。	期
7	5 高分子化合物と分子の利用 3 節 金属結合 1 金属結合と金属 2 金属の利用			末
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	第3章 物質の変化 1 節 物質と化学反応式 1 原子量・分子量・式量 2 物質 3 濃度 4 化学変化と化学反応式 5 化学反応式と量的関係	非常に小さな質量の原子や分子の質量は、 12C を基準にした相対質量で表されることを知る。また、原子量は、同位体の各原子の相対質量の平均値であることを理解する。 原子量や分子量などに単位グラムを付けた質量中には、同数の原子や分子などが含まれることを理解させ、その具体的な数値が 6.0×10^{23} 個で、この粒子の集団を 1 mol ということを知る。 溶液の濃さを表す方法を学習し、質量パーセント濃度、モル濃度の計算を習得する。 簡単な化学反応式とイオン反応式が書けるようになる。 化学反応式の係数比は、物質質量比(気体の場合には、さらに体積比)を表していることを理解し、化学反応式によって、反応物・生成物の質量・体積が求められることを理解する。	授業への取り組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中間
10				

11	2 節 酸と塩基 1 酸と塩基 2 酸・塩基の価数と強弱 3 水素イオン濃度と pH 4 中和反応の量的関係 5 中和滴定 6 塩	酸・塩基の定義を理解し、酸性・塩基性についても理解する。 また、酸と塩基の価数と、酸と塩基の強弱とは、直接関係しないことを理解する。 水素イオン濃度と pH との関係を知り、pH の値で、水溶液の酸性・塩基性の程度が分かることを理解する。 酸と塩基が反応すると互いの性質を打ち消し、塩を生成することを理解し、また、塩の分類と塩の水溶液の液性を理解する。 H ⁺ と OH ⁻ とが 1:1 で反応することを知り、また、中和滴定の計算を理解する。	授業への取組み方、 提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期 末
12				
2 学期授業週数		15		

3学期							
月	学 習 項 目 (単 元 名)		学習のねらい (内容)			評 価 方 法	考査 範囲
1	3	節 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化剤と還元剤の反応 4 酸化還元反応の量的関係	酸素、水素、電子の授受に基づく定義を理解する。特に、酸化還元反応が電子の授受による反応であることを理解する。 酸化数の求め方、酸化数の変化と酸化・還元を理解する。 また、酸化剤・還元剤の定義を知り、両者の反応が酸化還元反応であること理解する。 金属の酸化されやすさの尺度であるイオン化傾向について学習し、個々の金属のイオン化傾向と反応性の関係を探る。 日常生活や社会との関わりの例として、電池や金属の製錬を理解する。			授業への取り組み方、 提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	5 金属のイオン化傾向 6 電池 7 酸化還元反応と金属の精錬						
3	終章 化学が拓く世界						
3学期授業週数		8	年間授業週数	3 5			

◎評価の観点及び内容

知識・技能	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活との関わりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）

教科 科 名	理科	科 目 名	生物基礎	教科 書	新編 生物基礎 (数研出版)	学 年 組	26・27H	単 位 数	2
年間 目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								

1 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 エネルギーと代謝	- 多様な生物にも共通性があることを理解する。 - 多様な生物に共通性が見られる理由について理解する。 - 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 - 生命活動にはATP のエネルギーが利用されていることを理解する。	授業への取組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	中 間
5	3節 呼吸と光合成	- 呼吸や光合成ではATP が合成されていることを理解する。 - 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。		
6	第2章 遺伝子とそのはたらき 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の複製と分配 3節 遺伝情報の発現	- DNA の構造を理解する。 - DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 - DNA が複製されるしくみを理解する。 - 体細胞分裂の過程でDNA が複製され、分配されることを理解する。 - DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。 - からだを構成する細胞で遺伝子がどのように発現しているかを理解する。	授業への取組み方、提出物及び調査の結果を総合的に判断する。	期 末
7				
1 学期授業週数		1 2		

2 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
9	第3章 ヒトの体内環境の維持 1 節 体内での情報伝達と調節	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節するしくみを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	中 間
10	2 節 体内環境の維持のしくみ	・自律神経系と内分泌系のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。		
	3 節 免疫のはたらき	・私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。 ・免疫と、病気や治療法との関係について理解する。		

11	第4章 生物の多様性と生態系	・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・日本に分布するバイオームについて理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	期末
	1節 植生と遷移			
	2節 植生の分布とバイオーム			
2学期授業週数		15		

3 学期

月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考 査 範 囲
1	第4章 生物の多様性と生態系 3節 生態系と生物の多様性	- 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 - 生態系の中で、多様な生物がどのように関係して、存在しているのかを理解する。	授業への取組み方、提出物及び考査の結果を総合的に判断する。	学 年 末
2	4節 生態系のバランスと保全	- 生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。 - 人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。		
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	体育	科目名	体育	教科書	アクティブスポーツ 2024	学年組	2年全	単位数	2
年間目標	(1)各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2)各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3)運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。								

1 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
4	体づくり運動 体育理論 集団行動	自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を中心に行う。 体力を高める運動を行い、体力の向上を目指す。また、自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を身に付ける。 走跳投の理想的な技術を理解し、実践を通して個人の記録向上を目指す。 球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	
5	陸上競技 スポーツテスト			
6	バスケットボール バレーボール			
7	ソフトボール 柔道 剣道 より 1 種目選択			
1 学期授業週数		1 2		

2 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	体づくり運動 体育理論	球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。 ダンスでは、リズムに乗って体を動かすことの楽しさを体験するとともに、自他の良さを認め合うことの大切さに気付く。 表現したいテーマにふさわしいイメージを捉え、仲間と協力して即興的に表現できるようにする。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	
10	サッカー バスケットボール			
11	バレーボール ビーチボール			
12	ソフトボール			
	柔道 剣道 ダンス より 2 種目選択			
2 学期授業週数		1 5		

3学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考査 範囲
1	体づくり運動 体育理論	球技では、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し勝敗を争うことの中から、作戦を立てたり工夫をしたりすることの楽しさや喜びを体験する。 武道では伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合を安全に留意して行う。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	
2	バドミントン バスケットボール 柔道 剣道			
3	より1種目選択			
3学期授業週数		8	年間授業週数	35

◎評価の観点及び内容

知 識 ・ 技 能	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、生活における運動の意義、体ほぐし・体力の意義及び運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動を合理的に行っている。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができる。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする中で、公正、協力、責任などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動を行おうとしている。

令和7年度年間指導計画（シラバス）									
教科名	保健	科目名	保健	教科書	現代高等保健体育	学年組	2年全	単位数	1
年間目標	個人の生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自ら健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。								

1学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
4	1 ライフステージと健康	思春期に起こる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深まる重要な時期であることを理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	期 末
	2 思春期と健康			
5	3 性意識と性行動の選択			
	4 妊娠・出産と健康			
6	5 避妊法と人工妊娠中絶			
	6 結婚生活と健康			
7				
1 学期授業週数		1 2		

2学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい (内容)	評 価 方 法	考査 範囲
9	7 中高年期と健康	加齢に伴う心身の変化、働くことや働く中で健康を保持増進することの意義を理解し、生涯を通じて健康に生活する力を身に付ける。 環境汚染による健康への影響を理解し、人間の健康は周囲の環境と深く関わって成立しており、空気・飲料水の衛生的管理や廃棄物の適切な処理が必要であることを科学的に理解する。ごみ処理の現状やその課題解決に役立つ知識を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能35%程度 2 思考・判断・表現35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度30%程度	期 末
	8 働くことと健康			
	9 労働災害と健康			
10	10 健康的な職業生活			
	1 大気汚染と健康			
11	2 水質汚濁・土壌汚染と健康			
	3 環境と健康にかかわる対策			
12	4 ごみの処理と上下水道の整備			
2学期授業週数		1 5		

3 学期				
月	学 習 項 目 (単 元 名)	学習のねらい（内容）	評 価 方 法	考 査 範 囲
1	5 食品の安全性	食品に関わる健康問題や食品の安全性を確保する環境づくりについて理解する。 健康は周囲の環境と深く関わって成立しており、社会全体の健康を高めるための取組みを理解し、一人ひとりが環境づくりに積極的に参加することの意義や方法について考えることで、健康を支える環境づくりに貢献する力を身に付ける。	学期全体の評価は、次の配分で行う。 1 知識・技能 35%程度 2 思考・判断・表現 35%程度 3 主体的に学習に取り組む態度 30%程度	学 年 末
	6 食品衛生にかかわる活動			
	7 保健サービスとその活用			
2	8 医療サービスとその活用			
	9 医薬品の制度とその活用			
	10 さまざまな保健活動や社会的対策			
3	11 健康に関する環境づくりと社会参加			
3 学期授業週数		8	年間授業週数	3 5

◎評価の観点及び内容

知識・技能	健康・安全の意義を理解するとともに、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。
主体的に学習に取り組む態度	自他の心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。